

国立国会図書館デジタルコレクションにおける 「海と空」・「海の気象」のインターネット検索・閲覧

平成 27 年 8 月 10 日
海洋気象学会

海洋気象学会発行の機関誌「海と空」と「海の気象」は、国立国会図書館において印刷資料が保管されているだけでなく、記事が電子化（デジタル化）されて国立国会図書館デジタルコレクションとして保管され、インターネットを通じた検索・閲覧ができるようになっています。

1. 国立国会図書館デジタルコレクション

国立国会図書館（以下、「国会図書館」という）では、「海と空」は、1921年の創刊号から2000年3月刊行分までが、「海の気象」は初期のものに抜けがあり、1966年から2000年3月刊行分までが電子化され保管されています。

「海と空」については、本学会への著作権の譲渡が終わっており、本学会の許諾により一部の記事をのぞき一般公開されています。インターネットに接続されていれば、著者名や題名などに含まれる文字列で自由に検索ができ、記事を閲覧することもできます。

「海の気象」については、本学会への著作権譲渡が困難なため、記事の一般公開とはなっておらず、インターネットでの検索はできますが、記事の閲覧はできません。記事を閲覧できるのは国会図書館あるいは連携する各地の図書館に置かれた端末に限られます。

国会図書館デジタルコレクションでは、当学会の機関誌のほか気象庁発行の「研究時報」、「測候時報」をはじめ多くの海洋気象関係の資料が電子化されています。また、神戸に海洋気象台が設立されたころの「海洋気象観測法（海洋気象台，1921）」、「雲級図（海洋気象台，1922）」、「海洋観測法（海洋気象台，1936）」など貴重な歴史的資料や、「海洋気象学：馬場信倫著（嵩山房，1923）」、「颱風の話：岡田武松著（海洋気象台，1924）」などの海洋気象学草創期の教科書や書籍も電子化され、一般公開もされています。さらに、海洋気象学会と関係の深い海事関係者などにむけた刊行物、「船と海上気象（気象庁）」、「海と安全（日本海難防止協会）」なども電子化されています。

最近では、気象庁はじめ官公庁などから、調査研究成果などさまざまなものがそれぞれのウェブサイトで公開されています。そのようなオンライン資料も、国会図書館が別途始めた[インターネット資料収集保存事業](#)によって収集・保管され、一般公開されています。

上記デジタルコレクションでは電子化・保存されていない本学会の機関誌などの資料（例えば、「海と空」の2000年4月以降の刊行分など）についても、本学会ホームページに資料を掲載し、学会として事業を許諾することで、国会図書館での保存・公開を進めます。

2. 国立国会図書館デジタルコレクションの利用方法

国会図書館デジタルコレクションにおいて海洋気象学会の機関誌の記事を調べるには、国会図書館デジタルコレクションの[トップページ](#)から始めます（図1）。検索サイトの検索語入力ボックスに「国会図書館 デジタル」などと入力すると、国会図書館デジタルコレクションのリンクが出てきます。



図1 国立国会図書館デジタルコレクションのトップページ

画面上方の検索語入力ボックスのすぐ下に、『インターネット公開 図書館送信資料 国立国会図書館内限定』とあります。これは、資料の提供範囲の区分を示すもので、右の「国立国会図書館内限定」は国会図書館の端末でのみで閲覧が可能なことを、真ん中の「図書館送信資料」は[連携する各地の図書館](#)でも閲覧が可能なことを、左の「インターネット公開」は家庭やオフィスでも閲覧が可能なこと(一般公開)を示しています。一般公開されていない「海の気象」の記事を調べる場合、「インターネット公開」ではなく、「図書館送信資料」にチェックマークを入れておく必要があります。「海と空」は一般公開されていますので、「インターネット公開」だけでもかまいません。

そして、検索語入力ボックスに、例えば「海と空 海洋気象学会」と入れると、1921年からの「海と空」の各号がリストアップされて表示されます(図2)。

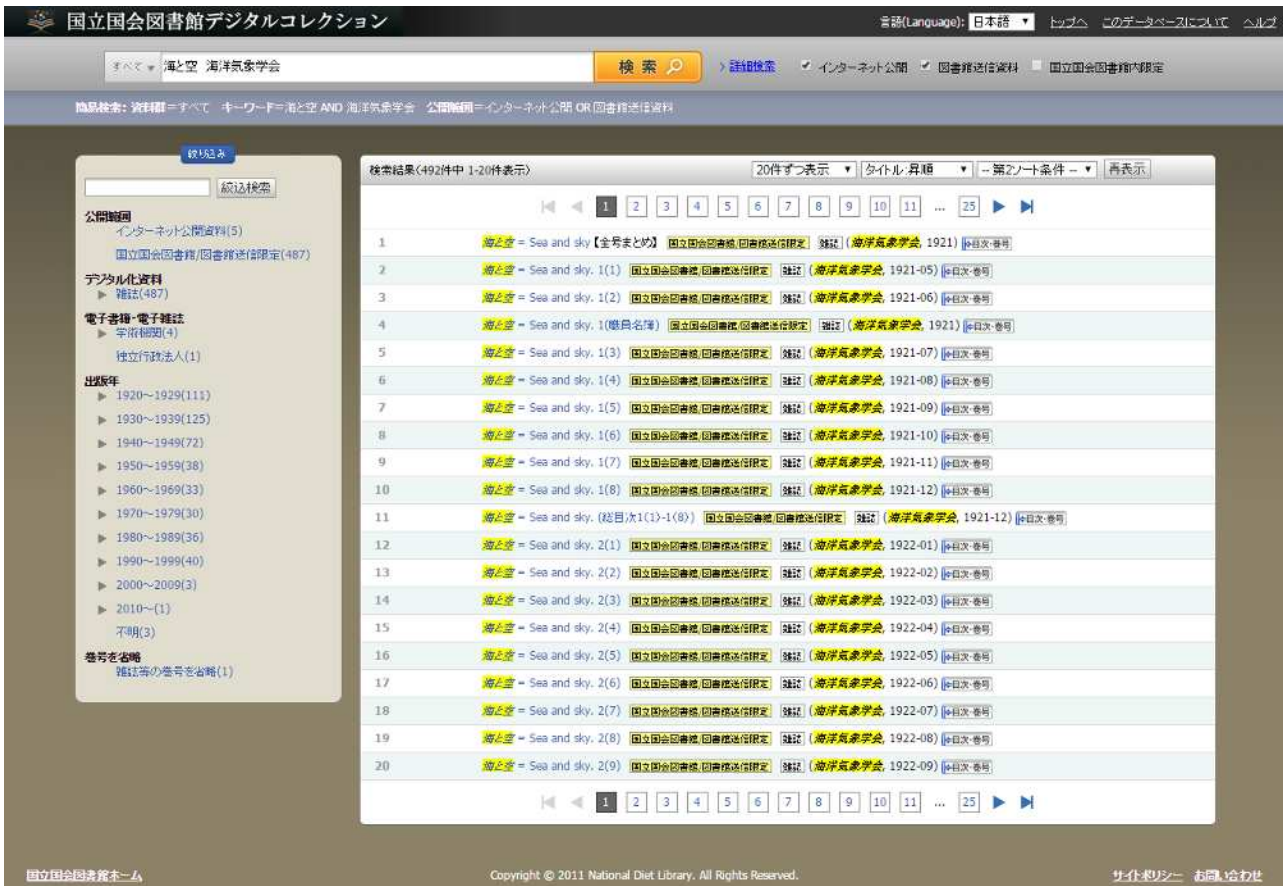


図2 「海と空 海洋気象学会」で検索して表示された1921年からの「海と空」各号のリスト

そして、例えばリストの2行目にある『"Sea and Sky, 1(1)" ("海と空"第1巻第1号)』をクリックすると、記事内容が表示されます。必要なページを閲覧し、『印刷する』タブをクリックすると、記事のPDFファイルを得ることができます(図3)。

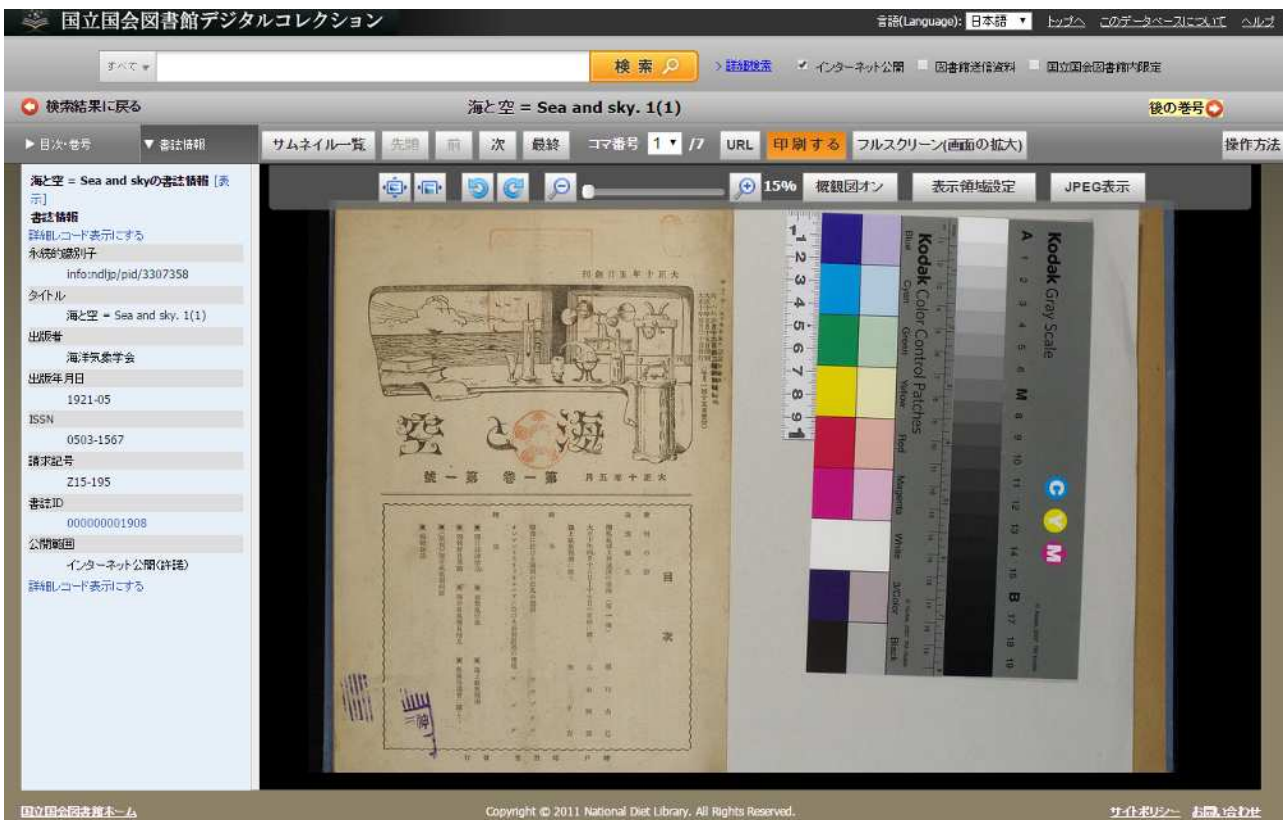


図3 「海と空」第1巻第1号の1コマ目の表示画面

先にも書きましたが、「海の気象」は一般公開されていませんので、同じように検索をして記事を見ようとすると、『この資料は、国立国会図書館および図書館送信参加館の館内でご覧いただけます。』と表示され、内容を見ることはできません。ただし、国会図書館や連携図書館の端末からであれば内容が表示され、印刷サービスのある図書館ではコピー（有料）を依頼することができます。

国会図書館デジタルコレクションの詳しい解説や利用方法などについては、その[ウェブサイト内の解説](#)をご覧ください。